

## Queen Elizabeth

エリザベス女王



エリザベス・アレクサンドラ・マリア、エリザベス二世。1914年、25歳で、イギリスのウィンザー朝第4代女王に即位。2022年に加齢で崩御するまで70年間、歴史的に国家に尽くした。イギリス史上最高齢および最長在位。また世界史上においても最長の在位の君主。写真は、2011年、即位前日に「バラレンス・ハウズ」の比喩室で撮影されたもの。Photo: © Getty Images

厳格さ、かわいらしさ。  
相反する性質の共存。

「elegance」には「選び抜くこと」という語源がありますが、時を経て、選び抜いたものを表現する「洗練」「優雅」というニュアンスを帯びるようになりました。エリザベス女王は、まさにその言葉象徴する存在だといえるでしょう。25歳で即位してから崩御で亡くなるまで、女王としての運命を受け入れ、その役割の責を高め、常に安定したスタイルでありつつ、多様な色でも多様性を表現する「ワンスタイル、マルチカラー」という、彼女の一言したファッションにも見て取ることが出来ます。

一方で、女王陛下のお気持ちが表れているに違いないと国民に推測させてしまう小道具選びはお茶目でした。たとえばアメリカのトランプ前大統領が訪英した際にはスノーフレックをかたどったグローブをつけていましたが、実はスノーフレックという言葉は反トランプ派が使うスラングでもあるのです。もちろん真相は明らかにはされていませんが、イギリスらしいウィットに富んでおり、非常にユニークです。

またEJJ離脱の際にはEJJの旗を連想させるデザインの帽子をかぶり、女王は実は離脱に反対だったのではないかとわれています。ロンドンオリンピックでは、どの国旗にも使われていないピンク色の旗を着て、ホスト国の君主としての外交的な配慮も抜かりありませんでした。余計なことは一切口にしない厳格さがありながら、フレンドリー、泰然自若なのに、ハートフル、エレガントかつ、チャーミング。そのように一見、相反しそうな性質を両立させていたところがまさに、世界中から敬意を受けた所以でもあるのでしょう。

著 中野香織 著作家・編集者

なかの、かわいイギリス文化、アンチエイジ史、ファッション史などが研究テーマ。著書に「ワイヤルスタイル 英国王族ファッション史」(古川文館)、「共著」(「英国王族」エリザベス女王の100年) (三省堂) など。